

吾川・仁淀川駅伝競走大会

1月15日 第33回吾川・第27回仁淀川駅伝競走大会が行われ、インフルエンザなどで4チームが棄権となるなか、6チームが参加し健脚を競いました。

当日は往路・寺村西浦から上仁淀橋、復路・上仁淀橋から長屋を経由して、仁淀川町役場までの7区間22.8kmのコースで行われ、全チームが無事たすきをつなぎました。

今年は穏やかな天候の下、沿道の声援を力に変え、選手たちは最後まで力走しました。吾川駅伝の部では、5選手が区間賞を獲得した「高吾北広域A」が優勝し、仁淀川駅伝の部でも、同じく5選手が区間賞の力走を見せた「佐川高校ソフトボール部」が優勝しました。



声援を力に
6チーム健脚競う

《成績》

大会名	1 位	2 位	3 位
吾川駅伝	高吾北広域A 1:24:53	高吾北広域B 1:29:00	仁淀川町役場B 1:36:53
仁淀川駅伝 (総合の部)	佐川高校ソフトボール部 1:26:39	いの町陸上部 1:28:47	

《区間賞》

区間	吾川駅伝		仁淀川駅伝 (総合の部)	
1 区 3. 2 km	小田 定史 (高吾北広域A)	11分20秒	掛水 颯杜 (佐川高校ソフトボール部)	11分59秒
2 区 3. 1 km	西村 祥 (高吾北広域A)	10分49秒	前岡 隆杜 (佐川高校ソフトボール部)	11分56秒
3 区 2. 8 km	藤原 剛 (高吾北広域A)	9 分53秒	西森 紳悟 (佐川高校ソフトボール部)	10分49秒
4 区 3. 0 km	渡辺 光一 (高吾北広域B)	10分58秒	池内 篤志 (佐川高校ソフトボール部)	10分48秒
5 区 3. 9 km	徳弘 賢一 (高吾北広域A)	13分24秒	国沢 明弘 (いの町陸上部)	13分54秒
6 区 2. 9 km	橋詰 昌和 (高吾北広域A)	10分31秒	伊藤 雅彦 (いの町陸上部)	10分45秒
7 区 3. 9 km	神原 孝典 (高吾北広域B)	14分13秒	高橋 拓海 (佐川高校ソフトボール部)	13分54秒

※仁淀川駅伝大会は、女子の部の参加がなかったため【総合の部】のみ開催

おかもと整体

東洋整体を主に手のひら全体、指の腹全体での
施術法です。
緑内障や白内障にも効果があると期待できます。

仁淀川町土居甲 1 0 5 2 電話 3 4 - 2 6 3 0

広 告

- 受付…午前 8 時から午後 4 時まで
(正午から午後 1 時は休み)
- 施術時間…約 5 0 分
- 料金…一律 3, 0 0 0 円
- 休み…日曜定休
- 普段着で来て下さい

消防団出初め式に三百人

防火の決意新たに

無火災報償

寺村分団、名野川分団、池川分団、狩山分団、森分団、長者分団、泉川分団、沢渡分団、別枝分団

新入団員

西森 亮太 (川渡分団)
高萩 誠 (川渡分団)
宮崎 賢二 (名野川分団)
鶴井 博晶 (名野川分団)
鈴木 洋輔 (大崎分団)

1月22日 仁淀中学校グラウンドで仁淀川町消防団の出初め式が行われ、合田幸市郎団長以下二百二十八人の団員、自主防災組織、町内の女性防火クラブが参加して行われました。最初に階級異動のあった団員と、七月の町消防大会以降に入団した新入団員に辞令が交付されました。次に、それぞれの管轄区域で平成二十三年中に一件も火災がなかった九分団に対して、無火災報償が贈られました。

また、自分たちの地域を自ら守るため、ボランティアで活動している久喜自主消防団には謝礼が贈られました。その後、服装と機械器具の点検、分列行進などを行い、今年一年の無火災を祈念し、団員一人一人が防火に対する決意を新たにしました。

新入団員への辞令交付。
左から鶴井団員、高萩団員、宮崎団員、鈴木団員



都に西村貞平氏頌徳碑

不言実行

別枝小創設に尽力

去る11月23日、別枝小学校卒業生らにより、都の別枝小学校跡地に「西村貞平氏頌徳碑」が建立され、西村氏の子孫や都出身者、工事関係者ら約30人が出席して除幕式が行われました。

別枝小学校は、西村氏の自宅で開校し、法泉寺や芋生野の青年泊まり小屋など学びやを移した後、現在の別枝上区多目的集会施設の向かいに校舎を移設し、別枝教育起源として多くの卒業生を世に送り出してきました。

式典の出席者らは、別枝小学校創設の立役者であったほか、都踊りの継承者として、今も残る文化財を次の世代に伝えた西村氏の功績をたたえました。

西村貞平氏は、明治八年に県の指定教師として指令を受けた久野勝喜氏と、久野氏に学校設立と生徒出席の周旋を依頼された藤原寅次郎に協力し、同年の別枝小学校創立に尽力した人物です。

当初は学校の重要性を説いても、同意を得ることができないばかりか、教師を中傷して「彼らは中国の使者で、日本を滅ぼす手段だ」「生徒を出せばしめ殺される」など、あらぬ風評を立てられて苦慮していました。

西村氏は雑言飛語にも屈せず、生徒の安全の全責任を負い、自宅を学校として自ら終始監督する旨を住民に誓い、ようやく生徒の出席の了解を得ました。その後久野氏を教師として自宅に招き、西村氏自らも生徒となって一緒に授業を受けました。これが別枝小学校の起源です。



ふたば保育所で親の一日保育者体験

平成23年度8月から、ふたば保育所では園児の保護者の方を対象に「一日保育者体験」を実施しています。

保護者が自分の子どもの組に入り、絵本の読み聞かせやお昼寝時の寝かせつけ、行事の準備の手伝いなど、さまざまなことを体験し、昼には園児たちと一緒に給食を食べました。

家で見せる顔と違って、甘えずに色んなことをてきぱきとこなす姿に感銘したり、自分の子どもだけでなく組の全員と遊ぶことで、子どもが「保育所は楽しい」と言っている意味が理解できたようです。

お母さんにとっては給食の味付けや量なども参考になったようで、参加した保護者からは大変好評でした。

子育て再認識

保育士との連携強化も

体験した保護者の感想

- ・家にいるとどうしても、何かをしながらの育児になるのですが、子どもとじっくり向き合える時間ができてうれしく思いました。子どもたちも生活のリズムがしっかりできていて感心しました。
- ・子どもも保育所では頑張っているのだと、改めて分かり、多少のわがままは、今までより大きな目で見られそうな気がします。
- ・保育の様子もわかり、友達同士の関係も見られて良かったです。先生の大変さも見えて、貴重な体験であり、楽しい1日でした。もっと早くこのような体験をしてみたかったです。
- ・以前から保育士は大変だろうとは思っていましたが、体験を通じて改めて、先生方の偉大さを痛感しました。また、子どもは想像以上にしっかりと自分のやるべき事が分かっていて成長しているなあと思いました。
- ・1日のリズムと食事風景（内容や量）が見られて良かったです。給食は子どもの食べやすい大きさにカットされていて、おいしかったです。

「パパもつと、もつと！」



一緒にお昼寝うれしいね



読み聞かせをするお母さん先生



給食おいしい？



何して遊ぶ？

この事業で、保育士が、毎日一人一人の園児たちとどんなふうに関わっているのか、子どもたちが保育所ではとても頑張っていることなど、保護者自身の目で確かめることができたようです。

園児たちも、朝から自分や友達の「お母さん先生」「お父さん先生」がいるだけで大喜び。家では自分の親に「お母さん（お父さん）も早く来て」と催促するほど、楽しい1日のようです。

